

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

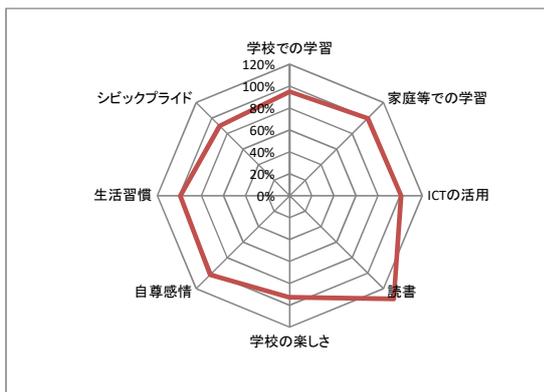
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が全国平均正答率より下回っている。特に「書くこと」の領域において課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報の扱い方に関する事項。目的や場面に応じて質問する内容を明確に描く問題。	
	努力が必要な問題	言葉の特徴や使い方に関する事項。自分の考えが正確に伝わるように考えて話す問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	専門的な用語の意味や計算など基本的な問題の正答率が全国平均正答率より下回っている。また、データの活用を不得意とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題。	
	努力が必要な問題	図形の問題やデータ活用の問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	思考力や表現力を問う記述式の正答率が、全国平均正答率より下回っている。また「書くこと」の領域において、苦手意識のある生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ある状況を描写する英文から様々な情報を読み取り、正解を選択する問題。	
	努力が必要な問題	社会的な話題から筆者の思いを読み取り、英語で表現する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書に関する項目の結果が全国の平均をかなり上回っている。その理由として、週1回のボランティアの読み聞かせや、定期考査後の朝読書の取組の成果が表れていると考えられる。 ・「授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対して全国平均より下回っているため、「考えをまとめる活動」や「書く活動（振り返り）」の時間をある程度確保する授業づくりをしなければならない。 ・自尊感情に関する問いに対してやや平均を上回っているが、地域との関わりや、社会をよくするためには何をすべきかを考えている生徒が少ないので、教師が保護者や地域が求めているものは何かを的確に把握して、総合的な学習の時間等を活用して、生徒たちに考えさせる場面を作ることが求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 各教科において、ICT機器を活用して「書く活動」を積極的に取り入れた授業づくりをする。
- 道徳や総合的な学習の時間の中で、「自己有用感」を高めることができる取組を実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習習慣の定着のために、週末課題の実施やドリルアプリを積極的に活用する。
- 各学年「自学ノート」の取組を行うが、教師が定期的の実態を検証して実施方法などを検討する。